

令和 7（2025）年度 学校経営計画及び学校目標

1 めざす学校像

- ・常に主体的で挑戦心、探究心を持ち、また思いやり・気配りのできる生徒の育成
 - ・これからの多様な変化に富んだ社会、変容する国際社会の中でも、自分の考えで行動し、活躍、貢献できる人材の育成
 - ・藍野大学、びわこリハビリテーション専門職大学、藍野大学短期大学部との連携強化
 - 一学生・生徒の交流、高大連携による法人の安定化
- そのために、全学的に高質な教育の提供を維持し、授業や行事・部活動、地域連携など学校におけるあらゆる教育活動を通して、連携強化を図り、ひとりの能力を最大限に高め、次に掲げるめざす学校像の実現に最善を尽くす。
1. 学習と部活・行事に積極的に取り組める学校（普通科・衛生看護科）
 2. 希望する進路を実現させられる学校
 3. 社会から信頼され、地域で誇りに思ってもらえる学校一開かれた学校（地域連携の充実）

2 中期的目標

1. 授業の充実と進路の実現 学校テーマ「主体的な学びを育成する授業」
 - (1)「わかる授業」「学力がつく授業」「進路に結果を出す授業」に取り組む
 - ① 授業アンケートを軸にした PDCA サイクルの徹底による授業改善を進める。
 - ② 教師力（教科指導力（授業力・専門知識）＋人間力）を向上させる。
 - ーこれまでに蓄積してきた授業実践の成果を継承しつつ、ICT 機器を活用するなど授業に新風を吹き込む取組みを進める。
 - ー各種研修会や授業公開を積極的に行い、学校としての自己改革力高める。
 - ③ 「探究・展開・発表する力」を育む取組みを進める。
 - ーアクティブ・ラーニングを取り入れた能動的な学習法を追求する。
 - ー生徒自身の発表の舞台を作る。（学習発表、英語プレゼン、情報プレゼン発表など）
 - ※学校アンケートにおける「本校に入学して良かったと思う」に関連する問いの肯定的回答（R6-75%）を、R7 年度には 85%以上をめざす。
 - (2)進学実績の向上・准看護師国家試験合格率 100%の維持
 - ① 「授業・自主的学習の一体化と充実を図る。（スラッグの活用やチェック機能）
 - ② 「自学力」の育成ーもっと学びたい生徒のための環境づくりに取り組む。
 - ー各時期の講習会の活用とチューター学習システムの活用・スタサポの活用
 - ③ 普通科「中堅・難関大志望・看護医療系進学希望者」ー進路を実現させる工夫とともに生徒の細やかな希望に応える体制づくりを行う。
 - 衛生看護科「生徒全員が国試対策と短大進学に向けた 5 年計画の学びの意識を持つ」
 - ④ 両学科における、日常的な学習効率の向上ー授業を大切に考える考え方の育成
 - ⑤ 新学習指導要領、教科書、観点別評価に向けた進捗を確実化させる。
2. 主体性・探究心をもった学習姿勢と学校生活での他人への思いやり・気配りの精神の涵養
 - (1)「主体的・探究心」の育成とともに、集団生活で「人を思いやることの大切さ」を実感させる。
 - ① 勉強と部活・行事の両立 ー学習・生活習慣・多様性・挑戦心の育成。
 - ② 生徒会活動の自主運営 ー文化祭、体育大会等の自主企画・運営を行い、生徒に多様な集団活動運営で味わえる成就感、達成感を体験させる。
 - ③ 国際理解の推進 ー国際交流事業に取り組む。
 - ④ 人権尊重教育の取組み ー多様な社会の中で、視野・視座の上がる教育を行い、思いやり・

気配り力の醸成も図る。

※学校アンケート「有意義な学校行事がある」肯定的回答（R6：66%）を R7 年度に 80%以上をめざす。

(2) 教育相談体制の充実

- ① 担任、学年は人権教育委員会を中心として学校カウンセラー、養護教諭の協力を得て、本人の希望を大切にしながら情報の共有化を図り、学校全体で支えていく体制を充実させる。

※学校アンケート「担任は相談しやすく、誠実に対応してくれている。」の肯定的回答（R6- 66%）を、R7 年度には 80%以上をめざす。

3. 学校力を高める機能的な組織運営と地域連携

(1) 機能的な組織運営と学校情報の積極的発信

- ① チームワーク・フットワーク・ネットワークを生かした機能的な校務運営に務める。
② ミドル・アップダウン・マネジメントを有効に機能させる。また、積極的な OJT を通じて次代を担うリーダーの育成に努める。
③ 学校説明会、HP、SNS などを活用して積極的な情報発信・コミュニケーション強化に努める。
④ 学校評価委員会、保護者会、照思会との連携を充実させる。

(2) 地域連携の推進

- ① 地域信頼の構築を図り、子ども食堂や商店街とのコラボレーション企画を開発し、今年度も進める。（近隣苦情対策）
② 学校評価委員会では地域の意見も大切にし、協力体制を構築する。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和8年春季実施予定]	学校運営協議会からの意見
○生徒 授業評価アンケート 授業準備がしっかり行われているか 授業目標や、大切なポイントを説明してくれるか、声や話し方は聞き取りやすく、説明がわかりやすいか 質問したり考えたり、発表する時間が多いか 先生の話すスピードや声の大きさは適切であるか 教え方や教材に工夫が見られるか ○保護者 学校への満足度調査を実施予定 ○教職員 各学期末の授業アンケートを踏まえ、良い評価については更に上質の授業を目指し、低い点については謙虚に受け止め、改善と工夫に力を注ぐ。常に生徒の目線に立ち、目標値を設定し効果的な指導に取り組んでいくようにする。 【分析】 教職員に学校運営と将来構想を周知し、意識改革に取り組む。	・学校経営方針や年間計画について協議を行い、地域と一体となった教育活動を推進していく方針に賛同いたします。特に、地域住民やボランティアとの連携を深める取り組みについて、今年度も積極的に進めていくことを期待します。 ・登下校時の見守りや、地域の行事への参加など、地域と学校が連携した児童生徒の健全育成に成果が見られます。今後は、さらに地域人材を活用した体験活動の充実や、地域住民との交流機会の増加に向けた支援を行っていきます。 ・施設設備の環境整備や、児童生徒の挨拶・マナー向上・授業力の向上の取り組みについて、教員が一体となった共通理解を持って指導にあたることが重要であると意見が一致しました。今後も学校・家庭・地域が一体となり、開かれた学校づくりを推進してほしい。

3 本年度の取り組み内容及び自己評価 令和7年度

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
学力の向上	(1) 個に応じた学習指導の充実 ア 授業における指導体制を確立する。 イ 習熟度別展開授業の実施。 (2) 生徒主体の授業改革の実施 ア 指導と評価の一体化を図り、教科・科目の目標の達成に向けた授業改善を努める。 イ 法令や生徒の実態を踏まえた教育課程の改善	(1) ア 指導方法評価方法を工夫し、思考力・判断力・表現力を育成する イ 生徒間の学力差を考慮し、日常的な課題、丁寧な指導等、工夫を施した指導を行う (2) ア 教科の振り返りと授業点検をし、各教科の公開授業を積極的に進める イ 各学科、コースにおける生徒の興味関心等に対応した特色ある教育課程を編成する	(1) ア 授業アンケート満足度75%以上 イ 学年成績の推移を経年比較 (2) ア 常に相互の授業見学、研究は可能とし研修に努める イ 両学科の教育課程の編成	(1) ア 学年末に実施予定 イ 昨年度の定期考査素点の年間平均と比較すると3学年では普通科進学アドバンスコースは10ポイント向上し、看護メディカルコースは4.9ポイント低下、総合キャリアコースは4.5ポイント向上、衛生看護科は1.2ポイント向上した。 1.2 学年については学年末考査成績処理が終了後に考察予定。 (2) ア 相互授業参観を実施し、自己研鑽に努めた。 イ 普通科については特別進学コースの設置に向け教育課程の開発を考案中である。衛生看護科においても看護科目以外や人間力向上にむけた教育課程を考案中である。

生活指導	(1) 基本的生活習慣・学習習慣の確立 ・清楚、清潔な身だしなみを心掛けさせる。 ・登下校マナーの徹底（服装・公共マナー） (2) 道徳教育、人権教育の推進 ・教育相談の充実を図り生徒理解に努める。 ・問題の早期発見・早期対応に努める。	(1) 身だしなみ指導週間の実施 また、毎朝、全教員による登校指導の実施 (2) 道徳教育、人権教育を推進し、人間として調和のとれた生徒を育成する。 全教職員、適格な問題対処や教育相談ができるように研修会を実施。 「暴力・いじめに関するアンケート」の定期的な実施と適切な対応。	(1) 遅刻者数の統計調査により前年度比10%減少を図る。 登下校指導／自転車安全講習会年1回実施 薬物乱用防止講演会年1回実施 (2) 各学年人権学習（講演等） 教職員研修会1回実施 「暴力いじめに関するアンケート」／毎学期末	登下校指導は、教員や生徒指導担当で毎日分担して実施した。 服装の乱れを防止するために、いろいろな指導を実施した。 遅刻指導を徹底した。5回遅刻するごとに、早朝登校指導（8：10登校）を実施した。遅刻回数が顕著に多い生徒については、校長訓告による指導を行った。しかし、遅刻回数自体は、現2・3年生の経年比較では、ほぼ横ばいであった。自転車の安全な乗り方を全校生徒にSlackで配信した。 ・スマホながら運転の禁止・左側走行を守る・歩道では歩行者優先する等。 薬物乱用教室は1学年で実施した。
進路指導	(1) 生涯を見通した的確な進路指導 ア 進路選択に向けた活動を企画・運営する。 イ キャリア教育を基盤とした組織的な進路指導の充実に努める。 (2) 希望進路実現のための学力の充実と向上	(1) ア 3年間・5年間の系統的な進路指導計画を策定し、適切な時期に進路別ガイダンスや情報提供、講習や面接指導などを行うことにより、進路意識の向上を図る。 イ あらゆる機会を捉えて、生徒の人間力、将来の社会人、看護師としてのマナー向上を図る。 (2) 模試や検定の受験に向けた意識の一層の高揚（事前・事後指導を徹底する）	(1) ア 各学年の進路ガイダンスや面接対策講座・試験対策講座（3年生） オープンキャンパスへの参加啓蒙 イ キャンパス見学の実施 (2) 実力テスト・小論文テスト 模試分析の充実	（進路指導部） （1）ガイダンスなど各実施予定行事は、すべて完了した。今後すべて、生徒に寄り添った形態で実施してゆく。 オープンキャンパスへの2年生からの啓蒙や藍野大学を含めたキャンパス見学会も実施。 （2）学力育成、論文作成力育成の面でのさまざまな外部試験は引き続き実施してゆく。ただ、生徒自身による検証作業を確実に実施させる必要がある。今後はスタディサプリ等の活用を教科・学年からも利用を図っていく。

特別活動	(1) 強化指定部を中心に適切な部活動が実践されるように指導。 (2) 校内美化をいっそう充実させる。学校をきれいにすることで生活意識の改善させる。 (3) 本校伝統の学校行事の継承、維持に努める。 (例) 家隆忌・芭蕉忌・和歌披講会・宮中詠進など	(1) 強化指定部の活動内容を精査し、予定表のチェックと助言指導を実施。 (2) 校内一斉美化の日を設け、学校全体で協力し、清掃活動を行う。 (3) 全員参加を原則とし、文化意識を高めておく。	(1) 強化指定部完全休養日／月4日近畿大会以上の出場 (努力義務) (2) 全校美化の日を設定。 (3) 各行事ごとの要項の徹底	(1) 部活動での安全性、子どもの健康重視の観点から確実に実施できた。また、吹奏楽部が全国に、ソフトテニス部が近畿大会出場を果たした。 (保健安全部) 校内美化を継続実施する。 (総務部) 伝統行事の維持に努めた。
-------------	---	---	--	--